

発表題目【**Corrective Feedback** としてのリキャストに対する学習者の認識とアップテイク
の関係性】

本研究は、刺激想起インタビュー(stimulated recall interview)を用いて、日本人大学生 EFL 学習者のリキャストに対する **Corrective feedback** (以下 **CF** と略)としての認識とアップテイクの関係性について、特に **Acknowledgement** とアップテイクをしていない際に焦点を当てて、明らかにすることを目的とする。現在までの研究において、リキャスト後に学習者がアップテイクをしている際には、ほとんどの場合、**CF** としてリキャストを認識できている(Egi, 2010)。しかしながら、アップテイクのひとつとして **Acknowledgement** の場合においては、リキャストを **CF** として認識できていない学習者が多い(三浦 & 井出, 2014)。更に、**CF** として認識できていても、アップテイクをしていない学習者も少数いる(Egi, 2010; Sato, 2016)。しかしこの場合、なぜ **CF** として認識できているにもかかわらず、アップテイクをしていないのか、明らかではない。

そこで、本研究では日本人大学生 EFL 学習者 9 名を対象に、ネイティブスピーカーとのタスクやインタビュー形式のインタラクションを課した後、その直後に刺激想起インタビューを行った。その中で、リキャストエピソードにおけるリキャストに対する学習者の反応が Nabei (2005)や Egi (2010)を基に分類された。特に、**Acknowledgement** とアップテイクをしていない際の学習者の想起コメントから、リキャストに対する認識とアップテイクの関係性について分析を行った。本発表では、これらの実験の結果と考察を報告する。